

## 課題NO.4

# 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

活動期間：令和3年度～令和5年度

対象者：農事組合法人あきう生産組合(役員8人)

チーム員：佐藤浩子、安達裕美、細谷和宏

# 1 課題の背景・ねらい

## (1) 背景

- 設立：平成28年にJA出資型法人として設立（前身：秋保転作組合）
- 構成員：22人(理事7人、監事1人)
- 経営規模：水稲12ha、大豆50ha、そば25ha
- 排水不良地や土壌タイプの異なるほ場が多く、**水稲・大豆・そばの収量は総じて低い。**
- 大豆を中心に**鳥獣害が多発**し、収量に影響を及ぼしている。
- **構成員が高齢化**しており、**若い従業員の雇用を計画**しているが、優秀な人材を確保するため、魅力ある**労働環境の整備**が必要である。



秋保在来そば



## (2)ねらい

- 水稲、大豆、そばの収量・品質が向上する。
- 新規に園芸品目が試作される。
- 人材確保のための労務管理について理解が深まる。
- 数値目標：農産物売上高増加率      R 1 :基準年    0

R 3 : 3 % 増    →    R 4 : 5 % 増    →    R 5 : 8 % 増

## 2 活動内容(～R3.8月)

### (1)水稲、大豆、そばの安定生産技術支援



土壤分析に基づいて施肥設計を行った水稲ほ場の生育調査



土壤分析に基づいて施肥設計を行った大豆ほ場の土壤改良資材散布



そば苗立ち状況

## 2 活動内容(～R3.8月)

### (2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援



そらまめの定植



そらまめの生育状況確認



ブロッコリー栽培講習会

## 2 活動内容(～R3.8月)

### (3) 労務管理基盤の整備支援



労務管理に関する勉強会

現況の労働力・労働時間は  
どのようになっているか？

乾燥調製施設の導入  
計画の進捗状況は？

乾燥調整施設の処理  
能力・規模は？

今後、経営規模は拡大  
される？

法人の形態はこのまま  
の農事組合法人？

女性の労働力の  
活用予定は？

若い社員の雇用  
の計画は？

園芸部門の担い手は？



**労務環境の整備が不可欠**

### 3 これまでの活動成果

- 新規にそらまめが約15 a 作付けされ，492kg出荷された。
- 秋冬ブロッコリーが露地及びパイプハウスで試作(約2.5 a 分)されることになった。



袋詰めされたそらまめ



JA仙台を通じて出荷されるそらまめ

## 4 今後の対応

### (1) 水稲、大豆、そばの安定生産技術支援

引き続き展示ほの生育調査を行い、収量・品質調査を経て、実績検討会を開催し、次年度の施肥設計に反映させる。また、鳥獣被害状況を確認するとともに、鳥獣害防止柵の点検時期の見直し等、効果的な鳥獣害対策を検討する。

### (2) 新規園芸品目の導入及び栽培技術支援

そらまめ、ブロッコリーは現地巡回や技術資料の提供等により支援を行い、定着を図る。

### (3) 労務管理基盤の整備支援

今後の従業員の新規雇用や女性労働力の活用を念頭に、専門家による勉強会を開催し、労務管理に対する理解を深められるよう支援する。